

施策番号	1803		
施策名	教職員の資質・指導力の向上		
概要	今日的な教育課題に対応した研修を実施するとともに、教職員の自主的な研修・研究活動を支援することで、保護者から信頼される教職員の養成を図る。		
担当局・部室	教育委員会・総合教育センター	共管局・部室	
上位政策	18 学校教育		
施策に関係する 主な分野別計画等			

施策の評価

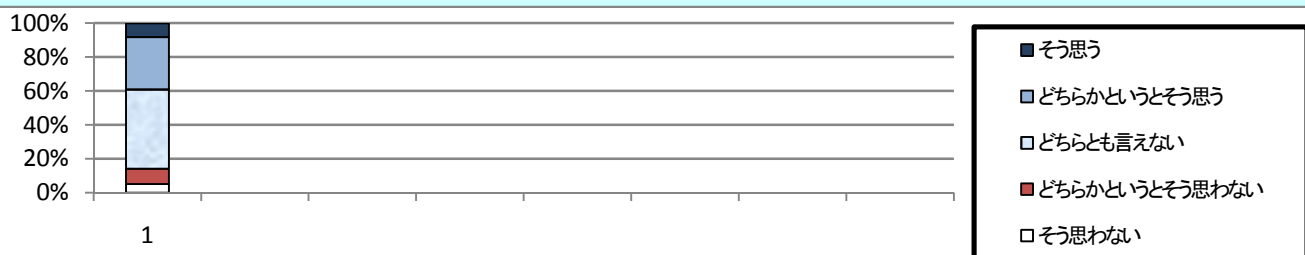
1 客観指標評価

指標名		年度	年度	23年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウエイト
1	総合教育センター利用者数(人)	-	-	33,297	40,716	38,000	107.2%	a	1.00
2	総合教育センター研修受講者のアンケート評価値(ポイント)	-	-	3.61	3.66	3.62	101.1%	a	1.00
3	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
				客観指標総合評価				a	

2 市民生活実感評価

*この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問		23年度回答						
		そう思う	どちらかと言 うとそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言 うとそう思わ ない	そう思わ ない	有効回答 者数	評価
1	学校の先生は、他校の先生、保護者や地域のひとびとと連携 して、子どもの教育に取り組んでいる。	40	149	226	44	25	484	c
		8.3%	30.8%	46.7%	9.1%	5.2%		
2	-							-
3	-							-
4	-							-
5	-							-
		市民生活実感調査総合評価						c



3 総合評価(客観指標総合評価＋市民生活実感調査総合評価)

B	施策の目的がかなり達成されている					
	重み付け	☒ 客観指標	a	☐ 市民の実感	c	
(重み付けの理由) 教職員を対象とする限られた範囲の施策で、市民の生活実感に施策の効果がすぐには反映されにくい性質があるため、客観指標総合評価を重視する。						年度
(原因分析) ・総合教育センターの利用者数については、自主的な研修・研究での利用者の増加が見られ、またほぼ全ての研修会において受講者アンケートを実施することで、常に受講者のニーズの把握に努めた結果、研修会への評価も高まり、客観指標はa評価となったが、そうした取組が市民の実感として反映されていないため、総合評価はBとなっている。						年度

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		23年度事務事業評価結果 における目標達成度評価	担当局
		22年度 決算額	23年度 予算額		
1	教員の資質向上	523,241	528,055	良い	教育委員会
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

・職務や経験年数に応じた研修や今日的要請・個々の課題に応じた研修により教職員の資質・実践的指導力の向上を図るとともに、夜間開館、カリキュラム開発支援センターの土曜日開館、教職員同士が学び合える場としての講座開設など、自主研修・研究会活動への支援を継続し、取組を充実していく。

施策名	1803	教職員の資質・指導力の向上				
-----	------	---------------	--	--	--	--

指標名	総合教育センター利用者数（人）					
-----	-----------------	--	--	--	--	--

担当課	総合教育センター	連絡先	3 7 1 - 2 3 4 0			
-----	----------	-----	-----------------	--	--	--

1 指標の説明

総合教育センターにおける自主的な研修・研究での利用者数（カリキュラム開発支援センターの利用者及び夜間・土曜日の研修等参加者数）

2 指標の意味

教職員の専門性や指導力向上のための自主研修・研究施設としての必要性を示す指標

3 算出方法・出典等

算出：夜間・長期休業期間中等の課題別研修の受講者数，研究会活動での利用者数，カリキュラム開発支援センターの利用者数及びホームページ等のアクセス数
出典：事業担当課調べ

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	21年度	22年度		数値	根拠	達成度
数値	33,297	40,716	利用者2,721人増。カリキュラム開発支援センターのホームページアクセス数4,698件を加算	38,000	過去5年間の利用者数最高値（21年度33,297人）に，22年6月からカウントを取り始めたカリキュラム開発支援センターの年間ホームページアクセス数（4,698件）を加算	107.2%

	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	
数値					過去5年間の数値 17年度 24,626名 18年度 26,841名 19年度 27,177名 20年度 28,427名 21年度 33,297名 ※21年度以降，長期休業期間中の研修受講者を計上

5 評価基準

単年度目標に対する達成度が
a：100%以上
b：90%以上100%未満
c：80%以上90%未満
d：70%以上80%未満
e：70%未満

6 基準説明

過去5年間の最高値以上を目標値とし，100%以上をa，以下10%刻みで按分した。

7 評価結果

		23
-	-	a

1 指標の説明

研修講座ごとに「ねらいの明確度」「内容の理解度」「内容の満足度」「職務への有用度」「運営手法の満足度」について，4段階評価によるアンケートを実施

2 指標の意味

教職員研修の充実を図るにあたり，当該研修会が受講者のニーズに沿い，実践に生かせる内容となっているかを示す指標

3 算出方法・出典等

算出方法：教育委員会が実施する研修講座についてのアンケートの総合評価の平均値
出典：事業担当課調べ

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	21年度	22年度		数値	根拠	達成度
数値	3.61	3.66	0.05ポイント増	3.62	毎年度，受講者によるアンケート評価を0.01上昇させることを目標	101.1%

	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	
数値					

5 評価基準

最新数値の昨年度数値に対する上昇値が，
a：+0.01以上
b：+0.00
c：-0.01
d：-0.02
e：-0.03以下

6 基準説明

当該指標について，前年度と同じ数値をbとし，その±0.01刻みで基準を設定した。

7 評価結果

		23
-	-	a